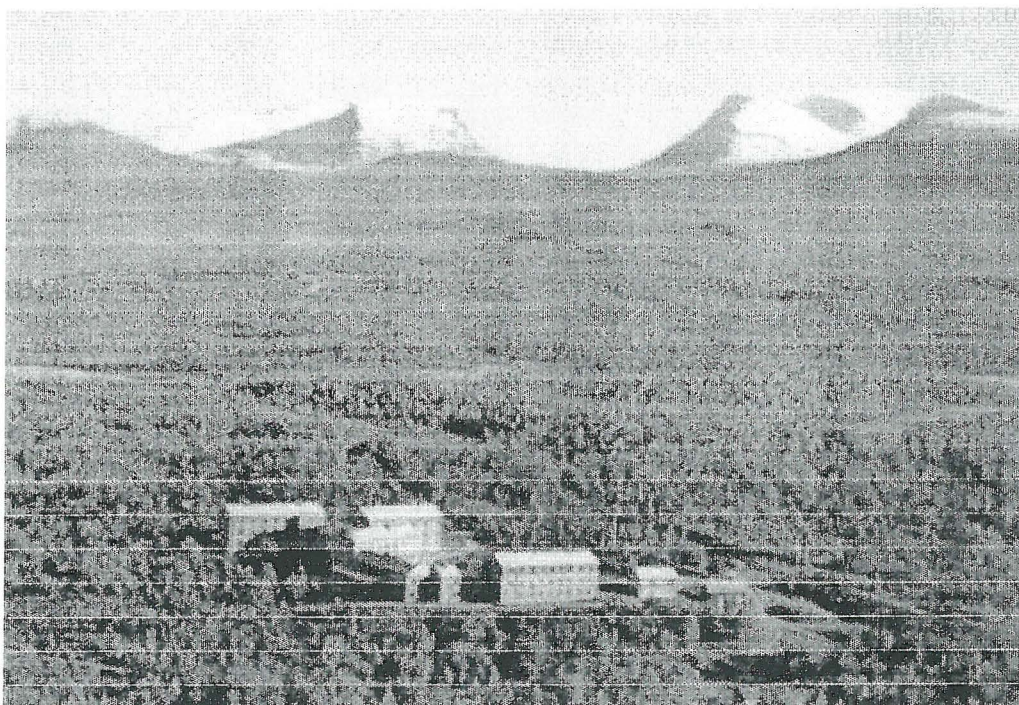


JISS



■目次

挨拶	1
事業・決算報告 議事録	3
平成14年度事業・決算報告	8
平成15年度事業計画・予算	15
役員・会員	18
編集後記	22

スウェーデン社会研究所 所報

No.323

2003年6月30日発行

発行所：社団法人スウェーデン社会研究所

〒105-0013 東京都港区浜松町1-8-1

(株)科学新聞社内

Tel. 03-5661-6035 Fax. 03-3655-1596

E-mail: sweden@tkm.att.ne.jp

URL: <http://home.att.ne.jp/apple/jiss/jiss.htm>

編集責任者：須永昌博

Editor in Chief: Akihiro Sunaga

2003.5.21



新たな研究所の活動に期待しつつ

松前 紀男

御挨拶が遅くなりましたが、昨年3月末に開かれた本社の理事会・評議員会において、私は理事長を退任し、スウェーデンの諸事情に明るく積極的に活動をされておられる常務理事の須永昌博氏に、理事長代行をお願いしました。私の理事長在任期間はわずか数年でしたが、困難な時期に、皆様から多大のご協力をいただき、心から感謝申し上げます。私は数年前に大きな開胸手術をし、体調の回復も不十分なまま当研究所の理事長をお引き受けしておりましたが、その間、当研究所の財政基盤もどうやら回復し、運営上見通しがついたことを見届けて退かせていただきました。幸いなことに本研究所は、その後、須永理事長代行のご努力で、企業情報中心の研究会と語学講座を開催し、最近はこの魅力的な活動がすっかり定着致しました。加えて本年の総会に於いて、瓦林聖児新理事長をお迎えし、新たに役員陣容も整い、未来に向けての足腰が定まった感があります。

ところで、昨年のニューズレターで「新しい胎動」という表現を使い、学会設立の動きに触れました。この点については、本研究所の永山泰彦理事が設立準備委員長となり、何名かの理事の方々の御協力を得ながら、昨年11月16日に設立総会を行いました。只今は、今秋11月の第1回大会に向け、活発な活動が展開されて居ります。この学会はスウェーデン社会研究所とは別組織として、また対象も、オランダ、北ドイツ、バルト三国等も含んだヨーロッパ北部地域を広く扱い、名称を『北ヨーロッパ学会 (JANES)』と致しました。これもスウェーデン社会研究所の35年にわたる活動が下地となっていることは言うに及びませんが、アイデアは前駐日スウェーデン大使とご相談した中で生まれできたものです。

新しい陣容で再スタートを切ったスウェーデン社会研究所に、私も名誉職という形で再び名を連ねることになりましたが、新たにスタートさせたばかりの『北ヨーロッパ学会』の立場をふまえながらご協力できることがあればよいが・・・と思っております。

これ迄の会員の皆様方のご協力に感謝し、研究所の新たな活動の発展を祈りつつ、挨拶に代えさせていただきます。



ご挨拶

理事長 瓦林聖児

去る3月26日の総会においてスウェーデン社会研究所の理事長に就任いたしました。昨年3月に理事に就任し、1年にわたりその活動を実感してまいりましたが、最初の驚きは会員の皆様がスウェーデンに関する全ゆる事柄に対し知識欲が大変旺盛だと言う事実であります。

社会研究所の目的、使命は定款の第4条に記載されていますが、「スウェーデン社会に関する科学研究を推進するとともに、日本とスウェーデン両国間の相互理解を推進すること」であります。当研究所は1967年10月に開所され今年が設立35周年にあたることで3月28日に記念講演会並びにパーティーを催したところであります。初代会長松前重義、理事長大平正芳、所長西村光夫各氏のご尽力並びに、その後の歴代理事長、所長の熱意ある運営により長年にわたりその使命を果たしており、さらに発展途上にあると思います。今年度以降も松前紀男名誉会長（前理事長）、須永昌博所長の協力を得て当研究所がさらに存在意義のあるものとなるよう微力を尽くす所存であります。

私は、1971年に三井物産の初代ストックホルム駐在員として訪瑞したことを端緒としてその後同国と長いお付き合いをする事になりました。一度目が1976年まで5年間、二度目がスカンジナビア三井物産の責任者として1980年から1986年までの6年間をストックホルムに在住し深いご縁となりました。

スウェーデンという国はわずかに約880万人という小人口にもかかわらず誠に特徴のある国だと思います。

この紙面にスウェーデンの歴史を詳しく述べる余地はありませんが、8世紀末から11世紀半ばにかけて北歐全般のヴァイキング時代を経てスウェーデンは16世紀半ばから北ヨーロッパの中でほぼ現在の形でのスウェーデン国として独立、その後の第一次世界大戦から、第二次世界大戦にかけて世界の一流国としての基盤が確立されてきたものです。特に第二次大戦後の産業の大発展により経済的にも先進国としての地位を築いてきました。

特徴のある国、と言う意味は、人道主義、男女平等主義、環境問題への高い関心、徹底した自然愛好、高福祉、武装中立、科学及び化学技術の高度志向（歴史的に基礎発明に多くの実績あり）などなどは何れも世界に中で際立ったものであります。

如何なる国にも日の当る部分と影の部分があると思いますので、全て良しとはいえませんが日本人の知的好奇心を満足させる部分、その理念や行動力など参考になるところの多い国と言えます。

当研究所は今年からの新しい事業計画として、在日スウェーデン人向けの日本文化講座も企画いたしました。研究所の会員は従来日本の法人、個人のみでしたがかかる新規事業を機にスウェーデン法人、個人も会員に迎えたいと考えております。

冒頭に申しました通り当研究所の会員皆様は、大変熱心にセミナーを受講されています。

我々も皆様のご期待に応えるべく努力してまいりますのでご支援をお願いいたします。

社団法人 スウェーデン社会研究所

〒105-0013 東京都港区浜松町 1-8-1 科学新聞社内

Tel. 03-5661-6035 Fax. 03-3655-1596

e-mail sweden@tkm.att.ne.jp

平成 14 年度 事業・決算報告書

目次

平成 14 年度 理事会・通常総会 議事録	1
議事次第	4
出席者名簿	5
平成 14 年度 事業報告	6
平成 14 年度 決算報告書	8
3 年間の収支バランス	1 1
監査報告書	1 2
平成 15 年度 事業計画	1 3
平成 15 年度 収支予算書	1 5
法人会員名簿	1 6
会員異動	1 7
役員異動	1 8
役員名簿	1 9

平成14年度理事会・通常総会 議事録

1. 日時及び場所

日時：平成15年3月26日（水）午後2時—4時

場所：霞ヶ関ビル33階 東海大学校友会館「かもめの間」

2. 会員及び出席者

現在員数 259名

役員32名、法人28社、個人177名、学生22名

出席者 13名

高須裕三、池田研二、池田富士太、瓦林聖児、松前紀男、依田直也、須永昌博

菊地幸子、波多野裕、新井義一、内田知佐子、平井光、坂田仁

委任状提出者 138名

役員14名、法人22社、個人91名、学生11名

3. 総会の成立

出席者13名、委任状提出者138名 計151名は、会員数259名の過半数、130名を超過するため、定款第4章第25条の規定により、総会は成立した。

4. 開会と議題までの経過

- (1) 定刻午後2時に、池田事務局長が、理事会、総会成立の確認報告を行ない開会した。
- (2) 出席者の自己紹介を行なう。
- (3) 議長の選出を行ない、須永理事長代行が選出される。
- (4) 須永理事長代行が理事会・総会の挨拶を行なう。
- (5) 議題に入る。

5. 議題

第1号議案 事業報告及び暫定決算報告承認の件

- (1) 事前に、丸山監事より理事長代行に、定款の会計年度（毎年4月1日—翌年3月31日）に従い、決算を3月31日締めにするよう指示があった。議長よりその旨の説明があり全員一致で承認された。よって、次年度の決算は3月31日締めとし、理事会・総会を4月以降に開催する旨が決定された。
- (2) 議長より、今年度は経過措置として、事業報告、決算報告は3月14日締めであること、従って事業報告、決算報告書は暫定であること、3月31日締め正規の決算報告書、事業報告書を、4月以降に作成し、理事会・総会出席者の承認を受ける旨、諮ったところ、全員一致で承認された。
- (3) 議長の指名により、池田事務局長より、平成14年度の事業報告及び暫定決算報告を行ない、全員一致で承認された。
- (4) 議長より、法人会員が脱会の傾向にあること、個人会員を増加することで、その補填をする必要があること、その為に、スウェーデン研究連続講座とスウェーデン語講座など、研究所の活動をより活発にすることが大切であること等の、補足説明があった。
- (5) 議長より、今年度は、スウェーデン研究連続講座、スウェーデン語講座の開催等で、事務量が増加し、人的理由で所報の発行が出来なかったことと、次年度より、波多野会員が、所報編集責任者として、年4回所報を発行し、特に、会合への出席が出来ない地方会員への便宜を図る旨の報告があり、全員の了承を得た。

第2号議案 事業計画及び予算案承認の件

- (1) 議長の指名により、池田事務局長より、平成15年度の事業計画及び予算案に関する

説明があり、以下の質疑を経て、全員一致で承認された。

「事務局より、過去3年間の収支バランスと次年度の収支の説明があり、会員が減少傾向にあること、会費収入が減少しつつあること、の問題が指摘された。しかしながら、管理費の減少、管理費/事業費のバランスが改善されつつあること、今年度初めて、事業費支出が管理費支出を超過したこと、次期繰越額は増加であること、等により、活動を活発にすれば、会員数も増加し、研究所の運営に支障を来す事態にはならない旨、全員の認識を得るに至った。」

- (2) 議長より、平成14年度6月1日を以って、松元事務員が退職し、人件費、管理費節約及び事務の合理化を勘案し、当面、スウェーデン社会に詳しい須永洋子が、臨時に事務を取り扱うことになった経緯の説明があり、全員の了承を得た。
- (3) 議長より、スウェーデン語講座が速水講師の功績により、その人気が高く、研究所の大きな収入源であること、従って、今後も講座の拡充を図る旨の補足説明があった。

第3号議案 会員加入と退会の件

- (1) 池田事務局長より、資料に基づき、新規会員、退会者の報告があった。
- (2) 法人会員は減少しつつあるが、逆に個人会員は増加しつつある旨の指摘があった。それを受けて、個人会員を増加することの重要性が質疑された。
- (3) 議長より、2年以上の会費滞納者は、役員であっても、退会者と見なす旨、の提案があり、全員の了承を得た。

第4号議案 役員異動の件

- (1) 前理事長、松前、現理事の会長への復帰を求める声が、研究所内外で強く、その旨、松前理事に理事会・総会より、要望した結果、名誉会長として引きうける旨の返答があり、全員で了承した。
- (2) 瓦林理事の理事長就任に対して、全員一致で了承した。これを以って、須永常務理事は理事長代行を退任した。その直後、新理事長は就任挨拶を行なった。
- (3) 池田理事に専務理事就任の要望があったが、多忙を理由に固辞したため、引続き事務局長を兼任する旨、全員の了承を得た。
- (4) 議長より、波多野評議員が、所報編集責任者として、年4回の所報の発行を行なうとともに、研究所の文化活動を先導する旨の、提案があり、全員の了承を得た。

第5号議案 その他

- (1) 議長より、管理費の節約と実務の効率化のため、研究所の事務連絡所を、事務局員、須永洋子の場所に設ける旨の、説明と提案があり、全員の了承を得た。
- (2) 来期の理事会・総会の開催は、丸山監事の指示に基づき、4月以降に開催する旨の説明があり、全員の了承を得た。
- (3) 所報の発行について、波多野編集責任者より、次年度第一号は7月発行する旨の説明があった。その間、5月に臨時増刊を発行することで、全員の了承を得た。
- (4) 議長より、会員名簿を作成し、会員に配布する旨の提案があり、全員の了承を得た。
- (5) 議長より、研究所の蔵書には一部、日瑞基金と共有のものがあるので、その取扱いについては、基金側と今後、協議する旨の説明があり、全員の了承を得た。
- (6) 議長より、外務省の査察があることの報告を行なった。
- (7) 議長より、本理事会・総会の議事録署名は、松前紀男、瓦林聖児、須永昌博の3名が行う旨の、提案があり、全員一致で承認された。
- (8) 議長より、新事業・運営改革に関する提案を求めたが、終了時刻の4時になったので、もし提案があれば、事務局までメールを送ることで全員が納得した。

6. 閉会

定刻4時に閉会した。

以上

本理事会・通常総会の議事進行経過およびその結果を証するために、議事録を作成し、議長並びに議事録署名人において、下記の通り、承認の記名捺印を行なった。

平成 15 年 3 月 26 日

社団法人 スウェーデン社会研究所 理事会及び通常総会

議長（旧理事長代行）

須 永 昌 博



議事録署名人（名誉会長）

松 前 紀 男



議事録署名人（理事長）

瓦 林 聖 児



平成14年度理事会・通常総会

日時：平成15年3月26日（水）午後2時—4時

場所：霞ヶ関ビル33階東海大学校友会館「かもめの間」

議 事 次 第

- 会議成立宣言
- 議長選出
- 理事長代行挨拶 須永昌博

● 議 題

- | | | |
|-------|------------------|------------|
| 第1号議案 | 事業報告及び暫定決算報告承認の件 | 資料1 (1, 2) |
| 第2号議案 | 事業計画及び予算案承認の件 | 資料2 (1, 2) |
| 第3号議案 | 会員加入と退会の件 | 資料3 (1, 2) |
| 第4号議案 | 役員異動の件 | 資料4 (1, 2) |

1. 松前会長の許諾について。
2. 瓦林理事長就任について。
3. 池田専務理事の許諾について。
4. 波多野総合文化担当、所報編集責任者の承認について。

第5号議案 その他

1. 事務連絡所
2. 来期理事会・総会の開催時期
3. 所報の発行とその内容
4. 会員名簿の作成、公開
5. 蔵書の取扱いについて
6. 外務省査察
7. 新事業、運営改革、の提案

以上

社団法人スウェーデン社会研究所

平成 14 年度 理事会・通常総会 (平成 15 年 3 月 26 日開催)

出席者名簿

(順不同・敬省略)

【出席者】 13 名

顧問 高須祐三
理事 池田研二、池田富士太、瓦林聖児、松前紀男、依田直也、須永昌博

評議員 菊地幸子、波多野裕
監事 、
法人会員 秀和ビルメンテナンス株式会社 (新井義一)
会員 内田知佐子、平井光、坂田仁、

【委任状提出】 138 名

役員 : 14 名
法人会員 : 22 社
個人会員 : 91 名
学生会員 : 11 名
総計 : 138 名

有効定数 151 名

【役員・会員総数】

役員 : 32 名
法人会員 : 28 社
個人会員 : 177 名
学生会員 : 22 名
総計 : 259 名

* スウェーデン社会研究所定款第 4 章第 25 条定足数「総会は、会員の過半数の出席がなければ開会することができない。」よって、会員過半数 130 名により、出席者及び委任状を含 151 名の為、開会することができる。

社団法人スウェーデン社会研究
平成14年度 事業報告

1. スウェーデン研究連続講座

場所 スウェーデン大使館オーディトリウム
時間 原則毎月月末 18:00-20:00
懇親会 講演終了後、講師を囲む懇親会

,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,

2002.04 [持続可能社会の構築—スウェーデンの試み]

レナ・リンダール 環境ジャーナリスト

2002.05 [スウェーデン産業シリーズ1—ボルボと車社会]

カール・グスタフ・エクルンド ボルボ日本 社長

2002.06 [スウェーデンの芸術—デザインと家具よりみた造形美]

川上信二 北欧建築家協会 副理事長

2002.07 [スウェーデン産業シリーズ2—アトラスコプロと建機業界]

アラン・ヘギー アトラスコプロジャパン 社長

2002.08 [地方分権社会—ヨッテボリを参考にして]

伊藤和良 川崎市 総合企画政策局 主幹

2002.09 [スウェーデン産業シリーズ3—アストラゼネカと医薬業界]

シェル・グルート アストラゼネカ アストラテック副社長

2002.10 [スウェーデンのマスメディア—私の見た日本]

ヤード・ラーション ダーゲンス・インダストリー日本特派員

2002.11 [スウェーデン産業シリーズ4—エリクソンと携帯電話社会]

スベン・エリクソン 日本エリクソン 副社長・事業部長

2002.12 [年金改革と資産ベースの福祉政策—スウェーデン型年金改革に学ぶ]

丸尾直美 第一生命経済研究所 顧問

2003.01 [スウェーデン産業シリーズ5—エレクトラックス社と家電業界]

トード・シールステット エレクトロラックス、社長

2003.02 [スウェーデンの産業と対外貿易—日本市場への取り組み]

ソニー・ソダバーク、スウェーデン大使館 商務官

2003.03 「スウェーデン政治の源流—スウェーデン国会主義の国際社会への影響」

ラース・バリエ スウェーデン国会大使

「スウェーデンのエコタウン・エコビレッジの構築—自然との共生を目指して」

2. 講演

- (1) 5月 スウェーデンチャルマース工科大学チャンプス箱根セミナー
「日本文化とその産業・経済活動への影響」
- (2) 5月 宇沢弘文、東大名誉教授 講演 対チャンプス「日本の経済政策」
- (3) 5月 三重県藤原中学校「スウェーデンの人権、福祉、環境」
- (4) 6月 スウェーデン大使館商務部「スウェーデンビジネススクール」
- (5) 8月 三重県藤原中学校「スウェーデンの環境問題」
- (6) 9月 都市公団「スウェーデンの環境と生活」
- (7) 10月 目黒ロータリークラブ「スウェーデンの環境政策」

3. パーティ

- (1) 9月 在日スウェーデン人学生・研究者懇親会、S J F / J S F と共催
スウェーデン大使館
- (2) 12月 スウェーデン語受講生 クリスマスディナー、レストラン「ストックホルム」
- (3) 3月 創立35周年記念パーティ、スウェーデン大使館

4. スウェーデン語講座

講師 速水 望

場所 東海大学エクステンションセンター、学生会館

- (1) 秋季講座 10月—12月 毎週木曜、金曜日、 18名
基礎文法、会話、読解
- (2) 冬季講座 1月—3月 毎週木曜、金曜日、土曜日 19名
基礎文法、会話、読解

5. 出版活動 所報「JISS」発行—ホームページで構築中

6. ホームページ <http://home.att.ne.jp/apple/jiss/jiss.htm>

スウェーデン研究連続講座 講演のビデオ放映

<http://www.iiv.ne.jp/Akademeia>

7. スウェーデン機関、企業支援

- (1) チャルマース工科大学チャンプス、経営視察団（22人）
日立製作所中央研究所、日本テキサスインスツラメンツ生駒会長
宇沢弘文東大名誉教授講演会
- (2) ヨッテボリ大学リバスト IT視察団（22人） 訪問準備
総務省、経済産業省、横須賀市、NTTドコモ、NEC、東芝
日本エリクソン

8. 情報提供

スウェーデン関連の（1）文献、書物、専門家、（2）福祉、教育に関する
問い合わせ約100件

テレビ会社、出版社、新聞社、会員、非会員より。

以上

平成14年度（35期）

決算報告書

自 平成14年4月 1日
至 平成15年3月 31日

東京都港区浜松町1丁目8番1号(株)科学新聞社内5階
社団法人 スウェーデン社会研究所

(社)スウェーデン社会研究所
平成14年度収支計算書

自平成14年4月 1日
至平成15年3月31日
(単位 円)

支出の部		収入の部	
費目	金額	費目	金額
(管理費)		(管理収入)	
給料手当(臨時雇賃金)	1,205,500	預り金所得税	150,382
松元	(305500)	預り金社会保険	41,360
須永	(900000)	預り金住民税	2,600
交通費	29,350	小計(A)	194,342
厚生費	166,144		
通信費	302,129	(事業収入)	
事務費	219,246	会費	3,837,790
賃借料	565,291	法人会費	(2399790)
租税公課	209,852	個人会費	(1352000)
雑費	9,006	学生会費	(86000)
備品	33,180	講演会収入	868,500
会議費	9,660	講習会収入	2,163,500
小計(A)	2,749,358	講習会書籍	40,400
		出版物収入	25,150
		雑収入	34,492
		取扱い手数料	700
(事業費)		小計(B)	6,970,532
講習会講師謝金	1,611,165		
講習会用書籍	19,506		
講習会用交通費	94,660		
講習会費(返金)	3,000		
講演会費	595,214		
出版費	126,000		
図書費	58,995		
通信費	412,320		
会議費	4,672		
備品	40,194		
雑費	10,702		
小計(B)	2,976,428		
合計	5,725,786	合計	7,164,874
当期収支差額	1,439,088		
次期繰越	10,485,937	前期繰越	9,046,849
計	16,211,723	計	16,211,723

(社)スウェーデン社会研究所

自 平成14年4月 1日
至 平成15年3月31日

平成14年度 貸借対照表

(単位 円)

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
(流動資産)		(流動負債)	
現金	97,940	預り金	28,933
銀行預金	10,632,642	前受金	5,000
未収会費	615,000	会費	(1000
法人	(240000	SV語	(4000
個人	(375000		
未収金	60,000		
(固定資産)		(正味財産)	
図書	114,288	基金	1,000,000
		次期繰越金	10,485,937
計	11,519,870	計	11,519,870

平成14年度 財産目録

平成15年3月31日現在

(単位 円)

手持ち現金		97,940
普通預金	東京三菱銀行	9,804,690
	三井住友銀行	399,952
振替貯金		428,000
計		10,730,582

3年間の収支バランスと次年度の収支

単位 千円

支 出					収 入				
項 目	H 1 2	H 1 3	H 1 4	H 1 5	項 目	H 1 2	H 1 3	H 1 4	H 1 5
人件費	4,088	2,010	1,401	1,440	会 費	6,764	5,308	3,837	4,700
					法 人	5,120	3,860	2,400	2,600
管理費計	7,138	3,854	2,749	2,680	個 人	1,568	1,387	1,352	2,000
					学 生	76	61	86	100
ス 語	1,544	1,134	1,729	2,170	ス 語	2,537	3,029	2,164	2,500
講 座	337	374	595	400	講 座	318	160	869	500
事業費計	2,697	2,743	2,976	3,560					
管理・ 事業費 計	9,836	6,597	5,726	6,240	事業 収入計	10,917	9,226	6,971	7,700
当期 収支	1,650	2,629	1,439	1,460					
次期 繰越	6,418	9,047	10,486	11,946	前期 繰越	4,768	6,418	9,047	10,486
総計	16,253	15,644	16,212	18,186	総計	16,253	15,644	16,212	18,186

注

- * H 1 2 は 1 5 ヶ月間の収支
- * H 1 5 は予定。
- * ス語はスウェーデン語講座、講座は講演会
- * H 1 4 のス語は 1 0 月からの半年間のみ。

社団法人スウェーデン社会研究所

監 査 報 告 書

平成14年度の本研究所の会計について適正であることを報告いたします。

平成15年 5 月20日

社団法人スウェーデン社会研究所 監事
丸山 圭一



社団法人スウェーデン社会研究
平成15年度事業計画

1. スウェーデン研究連続講座, 予定

場所 スウェーデン大使館オーディトリウム
時間 原則毎月月末 18:00-20:00

- 2003.04 [スウェーデン産業シリーズ7-テトラパックの経営理念]
テトラパック社
- 2003.05 [スウェーデンの高齢者福祉]
スウェーデン大使夫人
- 2003.06 [スウェーデン産業シリーズ8-サンドビックと特殊鋼業界]
サンドビック社
- 2003.07 [スウェーデン芸術シリーズ2-スウェーデン音楽の神髄]
戸羽 晟 氏
- 2003.08 [スウェーデン産業シリーズ9-ヘガネスとはどんな会社か]
ヘガネス社
- 2003.09 [スウェーデンの初等・中等教育]
- 2003.10 [スウェーデン産業シリーズ10-SKFとベアリングの世界]
SKF社
- 2003.11 [スウェーデンの高等教育と研究開発]
- 2003.12 [スウェーデン産業シリーズ11-IFSとソフト業界]
IFS社
- 2004.01 [スウェーデンにおける女性の役割]
- 2004.02 [スウェーデン産業シリーズ12-ABBの経営と世界戦略]
ABB社
- 2004.03 「スウェーデンとEU-今後の展開」
スウェーデン大使館公使

2. スウェーデン人向けの日本文化講座 (新規事業)

日時 : 隔月、月中旬 18:00-20:00
場所 : スウェーデン大使館クラブルーム

方法 : 日本文化の技能を有する専門家による講義と実演
盆栽、琵琶、民謡踊り、太鼓、寿司、三味線、雅楽、狂言

3. 講演

- (1) 4月 ヨッテボリ大学リバスト IT視察団
「日本文化とその産業・経済への影響」
- (2) 10月 スウェーデンチャルマース工科大学チャンプス箱根セミナー
「日本文化とその産業・経済活動への影響」

4. パーティ

会員相互の親睦を深めるパーティを2回開催。
スウェーデンからの訪日視察団にあわせて臨時のパーティを開催。

5. スウェーデン語講座

講師 速水 望

場所 東海大学エクステンションセンター、学生会館

期間 春季（4月—6月）、夏季特別講座、秋季（10月—12月）

冬季（1月—3月）

秋季より、東海大学エクステンションセンターとの共同講座とする。

形式 （1）通学方式 火曜、木曜、土曜日
（2）通信教育
（3）スウェーデン人による個人レッスン

内容 基礎文法、会話、読解

目的 スウェーデンの基礎からはじめ、留学や実務に役立つスウェーデン語の能力の獲得を目的とする。
スウェーデンの語学能力認定機関と提携し、TOSICを設ける。

6. 出版活動 年間4回、所報「JISS」発行—ホームページを通じて会員に配布。
5月に臨時増刊号を発行

7. ホームページ <http://home.att.ne.jp/apple/jiss/jiss.htm>

スウェーデン研究連続講座 講演のビデオ放映
<http://www.iiv.ne.jp/Akademeia>

8. スウェーデン機関、企業支援

4月 ヨッテボリ大学リバスト IT視察団（22人） 訪問支援
総務省、経済産業省、横須賀市、NTTドコモ、NEC、東芝、日本エリクソン

10月 チャルマース工科大学チャンプス、経営視察団

9. 情報提供

以上

(社)スウェーデン社会研究所

平成15年度収支予算書

(単位 円)

支出の部		収入の部	
費目	金額	費目	金額
(管理費)		(管理収入)	
給料手当(臨時雇賃金)	1,440,000		
通信費	300,000		
事務費	220,000		
賃借料(リース)	600,000		
租税公課	70,000		
預り金			
雑費	10,000		
備品	30,000		
会議費	10,000		
小計(A)	2,680,000	小計(A)	
(事業費)		(事業収入)	
講習会講師謝金	2,000,000	会費	4,700,000
講習会用書籍	20,000	法人会費	260万
講習会用交通費	150,000	個人会費	200万
講演会費	400,000	学生会費	10万
出版費	300,000	講習会収入	2,500,000
図書費	60,000	講演会収入	500,000
通信費	500,000		
会議費(パーティ)	100,000		
備品	20,000		
雑費	10,000		
小計(B)	3,560,000	小計(B)	7,700,000
合計	6,240,000	合計	7,700,000
次期繰越	11,945,937		
収支差額	1,460,000	前期繰越	10,485,937
計	18,185,937	計	18,185,937

法人会員

りそな銀行新都心営業部
(株)エフエム東京
(株)霞ヶ関東海倶楽部
(株)港北
港北出版印刷(株)
(財)札幌市芸術文化財団コンサートホール事業部
山王総合設備(株)
(有)静岡富士サービス
秀和ビルメンテナンス(株)
(株)湘南オフィスサービス
湘南信用金庫
湘南土地建物(株)
(有)湘南富士サービス
湘南リース(株)
医療法人社団松和会
(株)新生銀行
全日本自治団体労働組合
東海ウイング(株)
(株)東海教育研究所
東海教育産業(株)
学校法人東海大学
（法）東海大学平和戦略国際研究所
(有)東京フジセンター
(株)富士サービス
北海道電力(株)
望星サイエンス(株)
(株)望星薬局
ワレニウスウイルスヘルムセンラインズアジア
（28社）

<平成14年4月1日～平成15年3月26日 新規個人・学生会員>

個人会員：28名

大橋信彦、太田清蔵、伊藤 彰、内田知佐子、ケイコ・マクナマラ、是永かな子、川島敏之、小松礼子、新藤哲雄、沢田芳夫、白江伊都子、田中久雄、夏目幸子、中村哲也、中里賢一、中島ちえ、平山敏雄、福島利夫、藤井英美、船越 勉、平井 光、舟崎隆之、松本晋司、宮下 永、馬淵勝雄、松本恵子、武藤順子、米竹 明、岡本藤三、戸並 誠、

学生会員：8名

青木沙耶香、荒井淳一、梅澤 文、甲斐田幸佐、齋藤津明、中里雅子、吉仲 崇、長瀬慎平、

<平成14年4月1日～平成15年3月26日 退会者>

個人会員：29名

2年以上会費滞納

鮎川 潤、石川さとえ、大村聡、大村弘道、城戸喜子、田付 明、玉井秀樹、広瀬貞雄、藤波大介、吉田俊輔、西下彰俊(住所不明)

退会届受理

今西絵美子、大村恵子、岡田いずみ、長内 覚、近藤 敦、高橋一夫、浦 智美、野坂 勉、長谷川直子、藤崎貴美子、水澤 明、山内和成、湯地光子、和井田恒則、外山 義(死去)、柴田 誠、カイ・レイニウス(評議員)、藤牧新平(顧問)

学生会員：3名

2年以上会費滞納

小山哲平、佐久間未澄希、

退会届受理

上田ゆり

法人会員：5社

(株)ジェー・シー・シー、湘南地所(株)、(株)第一勸業銀行北沢支店、(株)松坂屋 (法)東海大学北欧研究会

個人会員 209名

学生会員 22名

法人会員 28社

合計 259名

(平成15年3月26日現在)

役員異動の件（案）

<理事長候補者>

瓦林 聖児 (かわらばやし せいじ)

1959年 三井物産株式会社入社 42年間勤務
SWEDEN に通算 11年勤務（6年間はスカンジナビア三井物産社長）
3年間（1994 - 1997）豪州三井物産社長 兼
ニュージーランド三井物産会長
三井物産本社 代表取締役 常務
2001年 (株)エム・シー・コーポレーション 相談役
現在に至る

役員名簿

理事長代行	須永 昌博	(株)ノルディック商会 代表取締役
顧問	高須 裕三 中嶋 博	日本大学名誉教授 早稲田大学名誉教授（2名）
常務理事 理事	川崎 一彦 岡野 加穂留 松前 達郎 松前 紀男 岡沢 憲芙 丸尾 直美 川野 秀之 清原 瑞彦 原 禮之助 依田 直也 後藤 亘 黒川 清 山田 清志 池田 研二 遠藤 勲 加藤 康宏 瓦林 聖児 事務局長 池田 富士太	北海道東海大学教授 明治大学元学長 東海大学総長 東海大学副理事長 早稲田大学教授 日本大学 玉川大学教授 北海道東海大学教授 セイコーインスツルメンツ（株）相談役 立正大学大学院教授 （株）FM東京代表取締役社長 東海大学医学部医学部長 東海大学パンフィックセンター所長 東海大学開発工学部教授 宇都宮大学教授 文部科学省顧問 （株）エム・シー・コーポレーション 相談役 （株）科学新聞社代表取締役社長（18名）
評議員	菊池 幸子 永山 泰彦 福田 雅一 三浦 文夫 山上 賢一 服部 眞司 池上 佳助 五月女 律子 波多野 裕	文教大学名誉教授 東海大学教授 日本大学教授 武蔵野女子大学特任教授 佛教大学教授 湘南信用金庫理事長 東海大学文学部講師 藤女子大学文学部文化総合学科講師 日本エリクソン(株)常勤監査役（9名）
監事	淵上 貫之 丸山 圭一	弁護士 税理士（2名）

編集後記

昨年 3 月に研究所所報 322 号を発行して以来、1 年間所報の発行ができず、申し訳ありませんでした。

昨年の 4 月から、冒頭の御挨拶にありますように、役員人事の変更、事務局機能の刷新、新規事業の開始等が、ありまして、所報にまで手が廻らなかったのが、実情です。

特に、地方にご在住の会員の方には、所報が唯一、研究所との絆になりますので、発行が出来なかったことを深くお詫び致します。

研究所の役員、事務局等の更新に伴いまして、まず、情報公開を編集の柱に致します。

その目的で、今号は、年次総会の議事録、事業内容、財務内容、役員名簿等を掲載いたしました。研究所会員の方々の、論文、エッセイ、等を掲載する所報本来の主旨からは、逸脱致しますが、まず、会員諸氏に、研究所の現状をご理解いただきたく、今号はこのような体裁になりました。

次号より、実利に重点を置いた旬刊にしていまいりますので、論文、エッセイ等の寄稿を通じまして、会員諸氏のご協力をお願い致します。

忌憚の無いご意見、ご叱正をお寄せ下さい。

常務理事・所長 須永昌博
2003-06-16